

令和元年度 第2回
障害児通所支援事業所研修会資料

兵庫県健康福祉部障害福祉局障害福祉課

令和元年度第2回 障害児通所支援事業所研修会 次第

と き：令和2年2月5日（水）
ところ：ピフレホール 大ホール

1 開会挨拶

2 講演（13:40～15:40）

演題：「ライフサイクルにおける放課後等デイサービスの役割
～学齢期の子どものための豊かな育ちのために～」

講師：姫路市総合福祉通園センタールス花北 発達相談室長

奥村 由紀 先生

3 行政説明（15:45～16:30）

障害児通所支援事業の適正運営について

- (1) 個別支援計画の作成等における留意点
- (2) サービス管理責任者等研修の見直しについて
- (3) 障害福祉サービス等情報公表制度に係る手続き
- (4) 自己評価結果公表について
- (5) 障害福祉サービス事業者等及び市町等における事故発生時の報告取扱要領について
- (6) 福祉サービス第三者評価 一活用のご案内

4 閉会

今日この時間に皆さんにお願いしたいこと

- ◆私の話をただき台にして
ご自分が普段考えていることを「ことば」にしてみてください
- ◆日常の忙しさから離れ、
自分にとってのこの仕事の「意味」を考えてみてください

ライオンライオンにおける放課後等デイサービスの役割
～学齢期の子どもの豊かな育ちのために～

姫路市総合福祉通園センター 発達相談室
奥村 由紀

私にとっての「学齢期支援」（自己紹介に代えて）

- ◇1992年～ 新卒で入職、現在に至る
- 当時は学齢期サポートのメニューなし（学齢期は「福祉の空白時代」）
- 1997年～「ゆやけくらゐ」を立ち上げ、奥村
- 月1回、1時間半ほどの放課後活動（定員10名程度）
- 内容：室内で自由遊び、クッキング、ハイキング、買い物など
- 保護者には授産で自由に働かせたいという希望を提供
- 「児童デイサービス」開始され、終了へ
- 発達障害児SSYグループにスタッフとして数年関わる
- ◇現在は個別の心理相談で対応

「放課後等デイサービス」ができるまで

2003～2011年 「児童デイサービス」

2005年～ 「障害児タイムケア事業」

2012年～ 「放課後等デイサービス」開始

「放課後等デイサービスガイドライン」総則」より ①基本的役割

1. 子どもの最善の利益の保障

「放課後等デイサービス」は、支援を必要とする障害のある子どもに対して、学校や家庭とは異なる時間、空間、人、体験等を通じて、個々の子どもの状況に応じた発達支援を行うことにより、子どもの最善の利益の保障と健全な育成を図るものである。』

2. 共生社会の実現に向けた後方支援

3. 保護者支援

「放課後等デイサービスガイドライン」総則」より ③基本活動

◆自立支援と日常生活の充実のための活動
子どもが意欲的に関われるような遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育めるようにする。

◆創作活動

◆地域交流の機会の提供

◆余暇の提供

子どもが望む遊びや自分自身をリフレッシュさせる練習等の諸活動を自己選択して取り組む経験を積んでいくために、多彩な活動プログラムを用意し、ゆったりとした雰囲気の中で行えるように工夫する。

「放課後等デイサービスガイドライン」総則」より ②基本的姿勢

◆心身の変化の大きい小学校や特別支援学校の小学校から高等学校までの子どもであるため、この時期の子ども発達過程や特性、適応行動の状況を理解する。

◆子どもの発達過程や発達障別、障害特性を理解している員による発達支援を通じて、子どもが成長との信頼関係の形成を経験できることが必要であり、この経験を基盤として、友達とともに過ごすことへの心地よさや楽しさを味わうことで、人と関わることへの関心が育ち、コミュニケーションをとることの楽しさを感じることができるようになる。

◆友達と関わることで、関係を調整する力や、主張する力、折り合いをつける力が育つことを期待して支援する。

◆基本活動には、子どもの自己選択や自己決定を促し、それを支援するアプローチを認められることが求められる。

放課後等デイサービスガイドラインの「キーワード」

発達支援

- ① 他者への信頼関係の形成
- ② 関係を調整する力・主張する力・折り合いをつける力
- ③ 自己選択・自己決定
- ④ 成功体験の積み増し・自己肯定感

マイクロサイクルにおける「学齢期」

「子ども」から「青年」「大人」へと変化していく時期

- > 「生きていく力」をつける
- 自分ができること
- 周りにサポートを求めること
- > 「自分」を知る
- > 「子ども時代の良い思い出」を作る

キーワード① 信頼関係

基本的信頼感の確立：乳幼児期の発達課題＝すべてを土台

- > 「見守られている」「認めてくれている」という感覚の大切さ
- > 「他者に信じてもらえる経験」が「自信（自分を信じる）」に

学齢期における発達支援

学齢期の「発達課題と危機」：勤怠性 vs 劣等感 (エリクソン)

- > 「できること」「難しいこと」を知る (自分への気付き)
- > 「できること」を積み重ねる→自信を育てる
- > 「難しいこと・苦なこと」への対処法を知る
- 「困っている」ことに気付き、SOSを出す

キーワード② 折り合いを付ける

ストレスを感じた時の気持ちと行動をコントロールする力を

- > 「失敗させない」ではなく、
- 「失敗してもなんとかなる」という経験を
- > 葛藤を共に味わう人の存在が大切
- > 誰かの支えがあれば自分なりの「対処法」を見つけられる
- 「生きていく力」になる

そうは言っても子どもたちは生きにくい

- ◆発達課題が積み残されている
- ◆乳幼児期からの課題+学童期の課題が交錯
- ◆「知的能力」+「生活経験」の複雑さ
- ◆いいことも悪いことも積み重なる

事例いろいろ

- 「『選ぶ』って何？」と質問する30代
- 辛くなると学生時代にタイムスリップする30代
- 「自分が犯罪者にならないのはここで話を聞いてくれるから」という20代
- 「失敗するかもしれないけど止めんといて」という20代

キーワード③ 自己決定・自己選択

「決める」「選ぶ」ためには選択肢が必要

- ▶わかってから「決める」「選ぶ」
- ▶経験したことがないものは「とりあえずイヤ」
- ▶「これが好き」→「それしか知らない」ことも
- ▶「自由」の難しさ

キーワード④ 成功体験の積み増し

学齢期：乳幼児期に芽生えたものを育み発展させる時期

- ▶生活の中で繰り返し経験し積み重ね、確実に自分の力にする
- ▶できる・わかる→「確信」できる・わかるという自信をつける
- ▶「好きなこと」を見つけたら→定着させる→レベルアップを増やす
- ▶学習：大人になつた時に役に立つもの、趣味や余暇に結びつくものを
- ▶「引き算」の支援（大人になつた子どもたちをイメージしながら）
過剰な支援は子どもの自信を阻害する

子どもと「人」として向き合えていますか？

- ◆まずは子どもを「理解しようとする姿勢」が大切。
- ◆子どもの「目」や「耳」になっている自分を想像する
- ◆「障害」ではなく「その子」を見る
- ◆HOW TOに走らない（理念なきクニツクは危険）
- ◆雑談・世間話の大切さ→「相談したい人」になる
- ◆子どもは「自分のことをわかってほしい」と思っている大人がわかる

自分の気持ちを一人で抱えていますか？

- ◆自身も発達過程にあることを自覚する
- 完璧である必要はない、子どもと共に成長すればいい。
- ◆自分の子どもが抱えていることを見直していますか？
- ◆自分の中に起こる感情を自覚する→自分を振り返る
- 子どもの見方が変わる→子どもが変わる

大人になった彼らから学ぶこと

- ◆「困っていること」「わからないこと」を周りにわかりやすく表現することの難しさ
- ◆経験の圧倒的な不足（いいことも悪いことも）
- ◆自己決定・自己選択の機会の圧倒的な少なさ
- ◆「自分の気持ち」への気づきの弱さと、それを他者と共有することへの「おきらめ」

「関係性」の中で子どもは育つ

- ◆子どもを支援することだけ考えなくてもうまくいかない
- ◆子どもとの関係の中で、自分に起こっていることに意識を向ける
- 子どもの見方が変わること
- ◆ここからは自分自身のことを見直してみよう

自分の仕事の意味を見失っていませんか？

◆自分が「その子の人生」に深く関わっていることを
しっかり自覚する

◆子どもにとっての「憧れの大人」になる

→自分自身が活動を楽しむ

◆自分がしていることは子どもたちにとってどんな意味があるか
真剣に考える → へきことが見えてくるはず！

保護者とチームになれていますか？

最近出会った保護者の言葉から

▶「素人なので…」アウトソーシング感覚？

▶診断は求めるか療育は「専門家にお任せします」

▶「ママさんより

▶「突然思春期になるで、どうするんやろ。」

▶一緒に過ごす時間の重み

「子どものことを知らない親」にならない支援を！！

「保護者支援」のことも少しだけ…

「カイホライズ」における「保護者支援」

① 子育て相談

② レイアウト

③ 入居の提供（マテリアル・ホールディングなど）

「レイアウト」は大事ですが…

◆あくまでも「子どもケア」で

▶保護者のニーズ*子どものニーズ

▶子どもの「長期的なニーズ」を保護者と共有する

（どんな大人になりたい？/なっしてほしい？）

◆保護者の「エンパワメント」を

（子どもの応援団長になってもらいましょう）

最後に

思い悩んだら「この仕事をやってみようと思っただ理由」を考える

人間関係に疲れたら「誰のために仕事をしているのか」に立ち戻る

子どもたちの人生にできるだけ長く寄り添い

子どもたちが「幸せな大人」になるのを見届ける

「酸っぱい」をぜひ味わいましょう！

私の思う「放デイ」の最重要ミッション

楽しく幸せな思い出となる経験を！

学齢期の思い出は

大人になっても感覚レベルで覚えている

「幸せな思い出」は彼らの人生を支えます